

令和5年9月28日（木）（R5第26号）

明日（9月29日）は中秋の名月です。必ずしも「中秋の名月」と「十五夜＝満月」が重なるわけではありませんが、今年は一一致るそうです。ちなみに、次に「中秋の名月」と「十五夜」が重なるのは7年後だそうです。50年以上生きてきて、「中秋の名月＝秋にみられる満月」のことだと信じていたのでこの情報にはびっくりしてしまいました。興味を持った方は、ぜひ調べてみてください。

今回はそんな月のお話です。

お月様には「三日月」「半月」「満月」など姿によって名前がついています。

半月（7日目の月）のことを「上弦の月」というのもご存知ですね。弓の形に似ていて、西の空にしずむとき、上の部分を弦に見立てているということです。「下弦の月」（23日目の月）はその反対ですね。

他にもこんな名前があります。

満月のことを「望月（もちづき）」とも言いますが、「小望月（こもちづき）」というのもあるのです。望月になるその前の日の月で、14日目の月です。

「十六夜」はもちろん16日目の月ですが、読み方がかっこいい。「いざよい」と読みます。

「立待月（たちまちづき）」月が出るのをまだかまだかと立って待つという意味（17日目）

「居待月（いまちづき）」待ちくたびれて座ってしまうので。（18日目）

「寝待月（ねまちづき）」遅くなり、寝てしまうので。（19日目）

つまり、日を追うごとに東の空に出る月の時刻が遅くなっているというわけです。

私が調べた範囲では、月は35個もの名前を持っていました。もしかすると世界一の名前王（？）かもしれません。いや、間違いなく世界一でしょう。

月にたくさん名前があることも日本語の美しさにつながっていると思います。江戸時代までは太陰暦（月の満ち欠けを基準にした暦）だったので、こんなに月の名前があるとも言え

ます。

明日はよい天気のようにです。家族そろって、お月見はいかがですか。明日は金曜日で忙しいかもしれません。次の土曜日・日曜日でも美しい月を見ることができると思います。晴れますように。